

体と心を健康に。
地域に元気を発信する広報誌。

設立50周年記念号

2017
7月発行 **夏号**

ご自由にお取りください

ごあいさつ

理事長 内海 順子 / 福島 孝徳 医師

医療法人新松田会 設立50周年記念行事 県民健康講座

健康で長生きするために

～健康管理と最新医療～

医療法人新松田会

設立50周年記念祝賀会

愛宕病院脳神経センター

国際脳神経外科シンポジウム



1



2



4



3

[写真: 昭和43~44年の愛宕病院]

1. 第3病棟全景(現北館) 2. 本館外装完了 3. 旧館全景 4. R階コンクリート打設中

医療法人新松田会 設立50周年によせて

医療法人新松田会 理事長 内海 順子



このたび医療法人新松田会は設立50周年の佳節を迎えました。4月2日には、設立50周年を記念してかほ一とにて県民健康講座を開催いたしました。さまざまな分野の先生方から貴重なご講演をいただき、大盛況でございました。同日夜にはザクラウンパレス新阪急高知にて祝賀会を開催し、年度初めのご多用な中、尾崎高知県知事、高知県医師会会長の岡林先生をはじめとする大勢の方々のご臨席を賜りました。また、丁寧なるご祝辞や、身に余るご厚志を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、私ども医療法人新松田会は設立50周年を迎えた訳ですが、創業はもっと昔に遡ります。

一昨年暮れの新聞に、「2016年で創業100周年を迎える高知の11の企業」という記事が掲載され、その中に当法人が挙げられました。

1916年(大正5年)は第一次世界大戦の最中で、戦争景気に沸いていた時代に祖父が創業した「松田医院」が当法人のルーツです。

その後、父の松田義朗が兄と協力し「松田病院」を設立。そして独立し「新松田病院」を設立した後、父は高知県民に24時間体制の医療を提供するというスローガンのもと、今から50年前の昭和42年に「医療法人新松田会」を設立しました。同年には県下第1号の救急告示病院の指定をいただきました。

昭和53年3月には「愛宕病院分院」を開院、同年4月に理学療法士養成校「高知医療学院」を開校し、本年3月までに総数1357名の理学療法士を、全国に向けて輩出しております。

そして平成11年以降には、訪問看護ステーション・ケアマネージャーステーション・療養通所ケアセンター等の在宅部門を開設し、医療人の育成や地域の中核的病院として研鑽に励んでまいりました。

また、平成21年には災害時に派遣される専門的な訓練を受けた医療チーム「愛宕DMAT」を発足し、高知DMAT指定医療機関となりました。

昭和59年、今から33年前に父が突然心臓病で他界し、試練の時もございました。

父の亡き後、現在会長をしている母は、まだ学生だった私たち3姉妹を育てながら法人の経営に奔走し、父の岡山大学時代の親友で、当時の高知県立中央病院 脳神経外科 吉村晴夫先生を院長にお迎えしました。この頃の関連病院として京都大学医学部、岡山大学医学部、高知医科大学(現 高知大学医学部)の先生方に多大なるご支援ご尽力をいた

だき、職員一丸となってこの試練を乗り越えることができました。

その後、平成3年より私は夫と共に新松田会を引き継いで新たなスタートを切り、はや26年が経とうとしています。

現在の院長は当時高知にはなかった不妊治療が専門で、高知で初めての体外受精児を誕生させ、これまでに約3000人の新たな命を生み出しました。

また、現在常勤医としてお勤めくださっている先生のほとんどは、この頃より長きにわたり新松田会を支えてくださっています。

医療を取り巻く環境もめまぐるしく変化する今日、先進医療を行う専門医師の招聘は、病院にとって重要な課題となっています。

そういった中、平成26年4月には福島孝徳先生を最高顧問とした脳神経センターを設置し、四国はもとより日本中から難しい症例の患者さまを受け入れることが可能となりました。この事は、当法人にとって大変名誉なことと感謝いたしております。

また、私の義弟である佐藤正樹医師も、今話題の脊椎の内視鏡手術が出来る日本で数少ない認定医師で、全国各地から患者さまが来られています。

平成27年には高知医療センター 前病院長の武田明雄先生を名誉院長としてお迎えしました。武田先生のこれまでのご功績やご人望の厚さで、病院連携の大きな絆を強固なものにしていただくとともに、南海地震等に備えた災害医療についてもご教示いただいております。

最後になりますが、設立から今日まで、たくさんの方々のひとかたならぬご支援、ご尽力を賜り50周年という佳節を迎えることができました。そして、現在の総職員数は約800名となりました。その中には3代にわたって勤務してくれている方や、設立当初から勤めてくださっている方もいます。昭和から平成にかけ、そして次の時代へと繋がっていくこのご縁に、この上ない喜びを感じるとともに感謝の念を禁じ得ません。

これからは、2025年問題等まもなく訪れる未だ誰も経験したことがない超高齢社会において、保険制度や介護制度の変革、病床機能分化などの地域医療のあり方、また医療従事者の確保の困難化など、さまざまな困難に直面することが予想されます。

私どもは、これからも未来をしっかりと見据え、皆さまに安全・安心で質の高い医療を提供するため、日々努力して参りますので、今後とも末永くご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

設立五十周年を 迎えた愛宕病院に 期待する



愛宕病院 脳神経センター最高顧問

Duke大学 脳神経外科 教授

福島 孝徳

高知市の中心に位置する愛宕病院は、昭和42年7月1日(1967年)初代病院長 松田義朗先生により地域医療と救急を中心に開設されました。以後、愛宕病院分院、高知医療学院等が増設され、訪問看護センターと共に充実したハイレベルケアを地域に提供するメディカルセンターとなりました。平成6年(1994年)より、内海順子先生が理事長に、そして内海善夫先生が病院長に就任され、病棟の増改築、リハビリテーション医療の充実、訪問看護部門の更なる促進と拡充がなされました。救急と地域医療に加え、循環器、外科、整形外科、婦人科、脳神経外科等の高度先進医療を充足、発展させました。

多数の専門診療科を維持する総合病院的な、四国でも有数の多機能高度医療を実践する近代的病院としての名声を確立してきました。

本年、設立五十周年を迎える事、全職員の皆さまに心より御祝い申し上げます。今後共、さらなる病院の発展に期待します。救急・地域医療と高度最先端医療と共に、21世紀に最も重要な「脳ドック」「がんドック」、循環器ドック、内視鏡、婦人科も含めて予防医学、健診センターを促進し、早期発見、早期治療を高知県のみならず、四国全域に拡充して、四国400万人の人々の健康のために今後益々総合医療センターとしての機能を十分に発揮されん事を心より願っています。私も脳腫瘍、頭蓋底外科の専門医として愛宕病院 脳神経センターのさらなる充実に全力を尽くす決意であります。

Best Care, Best Results and Pro Bono Aegrorum!

【所在地】	高知市愛宕町1丁目1-13
【理事長】	内海 順子
【院長】	内海 善夫
【許可病床数】	一般 療養 精神 介護 合計 275床 79床 70床 138床 562床
【標榜科目】	内科 外科 心療内科 精神科 泌尿器科 リウマチ科 耳鼻咽喉科 呼吸器外科 皮膚科 リハビリテーション科 放射線科 整形外科 脳神経外科 麻酔科 婦人科 眼科 循環器内科 呼吸器内科 消化器内科 救急科



沿革

1967.06.27	「医療法人新松田会」法人設立許可 開設者:松田義朗 救急病院告示
1967.09.01	「愛宕病院 分院」開院
1978.03	「高知医療学院」開校(理学療法士養成学校)
1978.04	「ケアマネージャステーションあたご」開設
1999.11.01	「ホームヘルパーステーションあたご」開設
1999.11.01	「訪問看護ステーションあたご」開設
2000.04.01	「訪問リハビリテーション」開始
2006.04	高知DMAT指定医療機関となる
2009.10	「2病棟の増築 改築 耐震」「3病棟と5病棟の改築」工事開始
2009.12	東日本大震災により愛宕病院DMATを派遣
2011.03	「2病棟の増築 改築 耐震」「3病棟と5病棟の改築工事」完了
2012.05	「在宅棟」完成(高知市愛宕町4番7号(1病棟跡地))
2012.12	福島孝徳 最高顧問を迎え脳神経センターを開設
2014.04	愛宕病院健康教室 開始(毎月第2土曜 14:00~15:30)
2014.06	設立50周年記念行事
2017.04	



2004年頃の愛宕病院

現在の愛宕病院南館

機関指定

- ・保険医療機関
- ・労災保険指定医療機関
- ・生活保護法指定医療機関
- ・原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
- ・結核指定医療機関
- ・第6期高知県保健医療計画 医療機能別医療機関 脳卒中センター
- ・高知県指定 指定難病に係る指定医療機関
- ・一般社団法人 日本脳神経外科学会 研修プログラム参加施設(研修病院)
- ・一般社団法人 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・公益社団法人 日本整形外科学会 整形外科専門医研修施設
- ・公益社団法人 日本精神神経科学会 精神科専門医制度認定研修施設
- ・公益社団法人 麻酔科学会 認定病院
- ・高知大学 内科専門研修プログラム 研修病院
- ・高知大学 臨床研修病院(協力型病院)
- ・指定自立支援医療機関(精神通院医療)
- ・高知DMAT指定医療機関
- ・岡山大学関連病院
- ・岡山大学病院研修連携施設B

健康で長生き するために

～健康管理と最新医療～



医療法人新松田会 設立50周年を記念して、4月2日(日)高知市文化プラザ かるぼーと大ホールにて4名の医師による県民健康講座を開催しました。「健康で長生きするために」をテーマに、整形外科・消化器内科・循環器内科・脳神経外科の各分野から、健康管理と最新医療について貴重なお話をさせていただきました。先生方のお話を少しずつですが、ご紹介したいと思います。

ここまで進化した 体に優しい 脊椎の手術

愛宕病院 整形外科脊椎外科部長 佐藤 正樹 医師

健康寿命を阻害する三大因子として「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「認知症」が挙げられます。今回の講座は、そのうち「ロコモティブシンドローム」に関連した内容です。詳しい手術の様子も動画やアニメーションを使用してわかりやすくお話いただきました。

2016年に愛宕病院で行った脊椎手術210例の年齢分布は、約45%が70歳以上、約11%が80歳以上。最も多いのは70代で、最高年齢は88歳だったとのこと。

これは、特に高齢化の進んでいる高知県では、脊椎疾患患者が増加していること、手術が低侵襲化したことにより高齢者でも手術を希望する患者さまが増加したことによるものと考えられます。

県内10カ所以上で脊椎手術を行っています。最小侵襲手術を積極的にやっていることが当科の最大の特長です。

主な最小侵襲手術(※1)のうちPELD(ペルド)は特に難しい技術が必要としており、安全な技術普及を目的として学会が技術認定制度を

(※1)【主な最小侵襲手術】
PELD(経皮的内視鏡下ヘルニア摘出術)
METRIX-MILD(筋肉温存型腰椎椎弓間除圧術)
BKP(経皮的後弯矯正術) / OLIF(前方侵入椎体固定術)

設けています。認定医は現在20名程度。西日本では佐藤医師を含め、わずか5名だそうです。

実は、佐藤医師ご自身も約30年前に腰椎椎間板ヘルニアの手術を受けており、その際の傷の写真も公開されました。傷の大きさは約10cm。まだ「PELD」の技術も開発されておらず、従来のLOVE法といわれる術式で行われ、1カ月半ほどの入院が必要だったとのことでした。術後の制限も多く、部活引退を余儀なくされたそうです。一方、PELDで施術した場合の傷は約7mmと本当に小さい傷で、術後の制限も少なくなっています。

現在の最小侵襲手術では、傷が小さいだけでなく、入院期間も翌日退院が可能なものから長くて1～2週間ほど。加えて、術中モニタリングシステムやナビゲーションシステムの導入により、術後の神経障害のリスクも限りなく0%に近づいているとのこと。さらに麻酔・術後の痛みのコントロール・リハビリテーションが重要な役割を果たすということでした。

このような難しい手術をこなし、ストレスのかかる日々の中、患者さまからの「ここで治療してよかった」の一言にすべてが報われ、これからますます精進したいとお話を締めくくられました。

【最小侵襲手術とは?】

- 1. 傷が小さい 2. 組織への侵襲が少ない
- 3. 術後の痛みが少ない 4. 入院期間が短縮できる
- 5. 社会復帰が早い 6. 腰椎筋の萎縮が少ない



佐藤 正樹 医師



小野 正文 医師

肝がんにならないために

～慢性肝炎の最新治療について～

高知大学医学部 消化器内科学講座
(内視鏡診療部) 准教授 小野 正文 医師

肝臓の3つの役割は「代謝」「合成」「解毒」。「肝心要」の言葉通り大変重要な役割を担っています。肝臓の病気の中でも命取りになるのが「肝がん」です。そのためには慢性肝炎にならないことが肝要です。肝がんによる死者数は年々増加していましたが、2005年をピークに減少傾向にあるそうです。肝がんの原因の60%はC型肝炎、続いてB型肝炎となっています。

2013年の高知大学医学部消化器内科のデータによると、新規の肝がん症例の成因のうちC型肝炎が約60%で1位。第2位が飲酒関連で約20%。また、飲酒がC型肝炎の進行を早めるということも示されました。高知県は都道府県別飲酒費用ランキング第1位。2位の石川県を大きく引き離れた1位だそうです。もちろんこれは喜んでいる場合ではありません。肝がんの大きな要因である慢性肝炎を引き起こさないためにも「お酒は控えめにしましょう!」ということ。検診などで肝臓が悪いと診断されたら、血小板の数値をみてみるとよいとのこと。肝臓の線維化が進むと血小板の数値が減り、10万より少なくなると80%の確率で肝硬変とのこと。肝がんにならないためにも肝硬変に進行しないよう抑えてあげることが大切です。

成因の一つであるC型肝炎については、現在飲み薬のみで95～100%の確率で治癒するそうです。C型肝炎ウイルスを増やす原因となる3種類のたんぱく質を抑えるための薬で大変高額ですが、助成金を申請すれば月額1万円もしくは2万円の負担で治療が受けられるという情報もご教示いただきました。

また、肥満や糖尿病に基づく脂肪肝(NAFLD:ナッフルディー)の中で、肝硬変や肝がんに行進するタイプの脂肪肝、非アルコール性脂肪肝(NASH:ナッシュ)についても説明がありました。特效薬があるわけではなく、ここで重要になるのが肥満の解消。運動はもちろんですが、間食、特に果物やジュースなどの摂り方に注意が必要だったとのことでした。それらに含まれる果糖の過剰摂取が内臓脂肪などを増加させることになるというお話には、来場者の方々様に驚い

ていらっやいました。

肝がんを命を落とさないためには、やはり慢性肝炎の早期治療、予防が大切だということ。興味深いデータの数々をユーモアたっぷりにお話いただきました。

不整脈の 自己管理と最新の アブレーション治療

東京医科歯科大学附属病院 不整脈センター 特任助教
前田真吾 医師

愛宕病院に来ていただくようになって5年になる前田医師。高知城には何度も足を運んでいるそうです。健康者である前田医師でも天守閣までの石段を登ると、息切れや動悸を感じるということでした。

講演の冒頭、来場者の方々に脈拍測定をしていただき、まずはその結果から異常の有無を確認しました。1分間の脈拍数が60未満で徐脈、100以上で頻脈となり、それぞれ心電図検査を受けた方がよいそうです。脈拍のリズムが不規則な場合、不整脈の可能性が。心臓病は大きく「心不全」「虚血性心疾患」「不整脈」の3つに分類され、不整脈にもいくつかの種類があります。その例として、心房性期外収縮は心房細動に、心室性期外収縮は心室細動に移行することがあるそうです。心室細動は、俗に「ポックリ病」といわれる突然死の原因のひとつとされています。

最も多くみられる心房細動患者は、日本に80～100万人程度いるのではないということでした。加齢とともに増加し、血栓塞栓症を起こすこともあるそうです。重症脳血管障害の約1/3が心房細動が原因で、小淵元首相や長嶋茂雄さんなどもそれが原因で脳梗塞を起こしたといわれています。

また、ペースメーカー植込み患者1万人以上を対象にした試験の中の、糖尿病や高血圧の患者でCHADS2スコア(※2)が比較的高い方をよく調べてみたところ、心房細動が1時間以上続くと血栓ができて脳卒

(※2)【心房細動患者の脳卒中発症リスクの評価:CHADS2スコアとは?】
心不全、高血圧の既往の有無・75歳以上の高齢者であるか・糖尿病、
脳梗塞の既往の有無を点数化して評価する方法。



前田真吾 医師

中になるリスクが通常の2倍になるということがわかったそうです。ただし、心房細動が5分続くだけで血栓ができて脳卒中になるリスクがあることもわかっています。このように脳梗塞とも深く関わりのある不整脈。どう発見し、どう治療していくかが今の課題であるということでした。心房細動の起源は左心房にある肺静脈の中からの電気刺激だということが10年ほど前にわかり、その電気刺激を焼灼によって抑えるカテーテルアブレーション治療が盛んに行われるようになりました。

まずは薬物治療からですが、改善しない場合にはカテーテルアブレーションの適応となるということです。

自己管理としては、適度な運動、塩分やアルコールの過剰摂取を控えるなど、やはり生活習慣が大切だということでした。



福島孝徳 医師

がんと脳疾患に勝つ

～脳神経外科最新治療の紹介～

デューク大学脳神経外科 教授／愛宕病院脳神経センター最高顧問
福島孝徳 医師

長年世界各国でご活躍の福島医師。1989年に渡米を決意し、現在アメリカのデューク大学を拠点にされています。渡米の際、明治神宮の宮司であったお父様からは「大和魂で行って来なさい。」、お母様からは「アメリカで勝負しなさい。」とのお言葉をかけられたそうです。ご両親の懐の深いお人柄が偲ばれるエピソードをご紹介くださいました。

日本は世界一医療費（検査費用）が安い国で、WHOの医療制度総合評価でも第1位となっています。つまり、世界一容易に医療や検査を受けることができる国、ということです。

1980年の死因順位別死亡数では1位が脳血管疾患でしたが、2016年の統計では脳血管疾患は4位となっているとのこと。因みに1位は悪性

新生物（がん）です。脳神経外科医師の努力はもちろん、脳ドックなどの普及も早期発見早期治療につながっているということです。

一方、心疾患の増加や動脈硬化、高血圧、肥満なども問題となっています。対策として、運動や塩分制限などが挙げられました。塩分制限には、お酢やレモンなどを使用して味付けに工夫をするといったアドバイスをいただきました。

タバコの身体への悪影響についても紹介されました。全がんの誘発因子であり、心臓病、脳卒中、慢性呼吸器疾患を引き起こす原因にもなっています。日本の国民医療費、約40兆円のうちおよそ20%がタバコ由来とのことで、タバコや深酒が脳の神経細胞を著しく死滅させるとのお話もありました。

また、『福島先生流 健康で長生きする方法』として、①一生懸命休まずに働く ②脳を最大限使う ③ドック検診での早期発見、早期治療の3つが挙げられ、加えて「恋をする!」のもいいのだとおっしゃっていました。

とにかくお休みにならない福島先生。1週間に8日働くつもりでやっているとのことですが、われわれ常人にはなかなか難しいことです。

その他にもご来場の方々にたくさんのプレゼント（書籍やCDなど）をご用意くださり、壇上からも直接お渡しになっていました。サービス精神旺盛な福島先生のお話には、会場の皆さまも時間を忘れて楽しんでいらしたようです。

～講座を終えて～

佐藤医師もお話しになっていましたが、いまの超高齢社会における課題は健康寿命をいかに平均寿命に近づけるかということです。現在、健康寿命と平均寿命の差は、男性が約9年、女性が約14年といわれており、この間何らかの介護が必要となるわけです。

これからのこの超高齢社会を生きていくわれわれにとって重要な課題ですが、この講演で生活習慣や早期発見早期治療の大切さを再確認することができました。

—昨年9月の市民公開講座に続き、大勢の皆さまにご来場いただき誠にありがとうございました。

開催日の4月2日、当初「かるぽーと」周辺の桜がちょうど満開を迎えるのではないかと予想していたのですが、今年は大幅に開花も満開も遅れ、残念ながら桜と一緒に楽しむことは叶いませんでした。天候も不安定で、開場を待つ来場者の方々には突然の雨風にご迷惑をおかけしてしまいましたが、なんとか無事に終了することができました。

最後に、当日会場スタッフとして協力してくれた職員の皆さん、準備段階から運営にご協力いただいた株式会社歳時記屋の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

医療法人新松田会 設立50周年記念祝賀会

県民健康講座に引き続き、ザクラウンパレス新阪急高知 花の間にて記念の祝賀会を開催しました。大勢のご来賓の方々にお越しいただき、職員を含む400名余りの大祝賀会となりました。

内海順子理事長からの挨拶では、当法人のルーツである松田医院開院からの歴史についても紹介がありました。尾崎高知県知事、岡林高知県医師会会長からご祝辞をいただいた後、おめでたい鏡開きと高知市の村岡健康福祉部部長による乾杯の音頭で開宴となりました。

また、岡山東部脳神経外科病院の五藤恵次先生からは、愛宕病院に在籍されていた1980年ごろの興味深いエピソードをご紹介いただくなど、和やかな雰囲気の中祝宴が進んでいきました。

終盤には、福島先生率いる「福島孝徳&東京オールドボーイズジャズバンド」によるミニライブが行われ、大いに盛り上がりました。

そして、内海善夫院長による手締めで終宴となりました。



尾崎高知県知事



岡林高知県医師会会長



村岡健康福祉部部長による乾杯の音頭



岡山東部脳神経外科病院 五藤先生



福島先生から内海理事長に記念の盾が贈呈されました



内海院長



ミニライブ



シンポジウム翌日、病院玄関にて左からDr. Angela Downes, Dr. Samy Youssef, Dr. Volker Seifert, Dr. Tiit Mathiesen, Dr. Vlad Ciurea, 内海善夫院長, 福島孝徳医師

愛宕病院脳神経センター 第6回 国際脳神経外科シンポジウム



かるぽーとでの県民健康講座終了後、ザクラウンパレス新阪急高知にて国際脳神経外科シンポジウムが開催され、福島孝徳医師のお計らいでご参集くださった世界各国の著名な先生方から最新の症例発表が行われました。



愛宕病院

健康教室のご案内

健康づくりの一環として、健康教室を開催しています。医師とその他の医療従事者から、皆さまの健康生活にお役立ていただけるようなお話をいたします。



毎月第2土曜日開催

(講師の都合による変更の場合あり)

時間:14:00~15:30

場所:愛宕病院 北館1階 リハビリテーション室

事前申し込み不要・参加費無料です

【お問い合わせ】愛宕病院 広報担当 伊東
TEL(代表) 088-823-3301

健康教室今後の予定

9月9日(土)

「生活習慣病と不整脈 ~健康寿命を延ばすために~」

講師: 東京医科歯科大学 循環器内科 前田真吾 医師

10月14日(土)

「テーマ未定」

講師: 高知大学医学部 呼吸器外科 穴山貴嗣 医師

高知市にお住まいの方は 大腸がん検診が無料で 受けられます

ご存知
ですか?

高知市大腸がん検診を受ける事ができる方

- 高知市に住所がある方 ●40歳以上の方
- 職場等で大腸がん検診を受けていない方
- 今年度初めて高知市大腸がん検診を受ける方



上記に関するお問い合わせはこちらまで

TEL(代表) 088-823-3301

外来診療時間 一覧表

診療科	午前(月~土)	午後(月~金)
内科	9:00~12:00	13:30~17:00
外科	9:00~12:00	14:00~17:00
整形外科	9:00~12:00	
脳神経外科	9:00~12:00	13:30~17:00
婦人科	9:00~11:30	16:00~16:30
リハビリテーション科	9:00~12:00 (月・水・金)	
眼科	9:00~12:00	13:30~17:00
心療内科・精神科	9:00~12:00	13:30~17:00
泌尿器科	9:00~11:30 (水曜日のみ)	14:00~16:00 (水曜日のみ)
皮膚科		14:00~17:00 (月・水・金)
耳鼻咽喉科	9:00~11:30 (月・土)	14:00~17:00 (水・木)
ER蘇生センター	24時間対応	
脳神経センター	24時間対応	

※各科診療日については、あらかじめお電話にて確認の上ご来院ください。
※愛宕病院ホームページにも掲載されています。ご覧ください。

休診日:日曜日・祝日

※但し、急患は休診日・深夜も24時間診療します



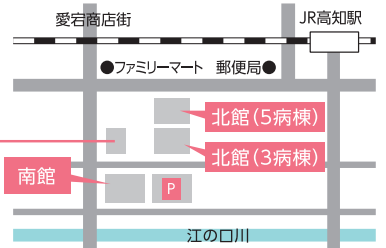
編集後記

年明けからずっと記念行事などの準備に追われ、終了後も蔭さま(?)で貧乏暇なしの状態が続いています(苦笑)。こうして過ごしている間に、今年もまた豪雨による被害があちこちで出てしまいました。最近の天災(災難)は忘れる暇がないほどにやってきます。これから台風シーズンに入りますが、皆さまお気をつけになってお過ごしください。今号の表紙は昭和40年代前半の愛宕病院です。



▲病院玄関フロアには、お祝いの胡蝶蘭が飾られていました。

◀県民健康講座の1週間後に撮影(桜越しのかるぼーと)



在宅ケアセンター
あたご
訪問看護ステーション
ケアマネージャーステーション
ホームヘルパーステーション
療養通所ケアセンター

受付は南館玄関を
入って左



医療法人 新松田会

愛宕病院

〒780-0051 高知市愛宕町1丁目1番13号

TEL(代表) 088-823-3301 救急専用 088-822-0009

FAX 088-823-3306(外来受付) Mail: info@atago-hp.or.jp

愛宕病院

検索

<http://www.atago-hp.or.jp/>